

## 第18回「市民と市長のふれあいトーク」の内容（要旨）

**と き** 平成27年7月15日（水）  
**テーマ** 津山のまちおこし  
**参加者** 芦田政廣さん（小田中）  
上山康裕さん（上河原）  
細川垣太さん（山北）

津山ホルモンうどんやオリーブの栽培を通じて、まちおこしをしている皆さんと市長が意見交換を行いました



### 滞在してもらえる津山に

**参加者** 多くの方が市外から津山にホルモンうどんを食べに来られますが、市内には、食べた後に行くところが無いとよく言われます。食事だけで通過されるのではなく、滞在して楽しめるような魅力のあるまちになるといいですね。

### つやまオリーブを立ち上げる

**参加者** 滞在して楽しめる場所などと同時に、新たに津山をPRできるものがないかと考えています。わたしは造園業を行う中で、お客さんから「使っていない田畑を何かに活用してほしい」「家の庭に植えるオリーブの木を安価で手に入れたい」という声や「若い人を雇ってくれないか」という依頼を受け、休耕田をオリーブ畑として活用し、雇用を生むことで、皆さんの思いを一度に実現できるのではないかと考えました。

オリーブの木を植えて3年後から毎年実を収穫できるようになり、寿命も400～500年といわれています。収穫量が安定すれば、オリーブオイルなど、津山の新たな特産品を作ることができますし、将来的にはオリーブ観光農園を作りたいという希望も抱いています。また、オリーブが育つことで、津山は寒いというイメージではなく、温暖なまちとしてもPRできると考えています。

**市長** まちおこしに一生懸命取り組んでくださる皆さんから、新しい風を吹き込んでいただいています。行政も後押ししないとイケませんね。

津山城など、市外の人に誇れるものを生かして、津山を滞在してもらえるまちにすることが必要です。また、これから売り出しを考えているつやま和牛や津山産小麦など、誇れる地場産食材を活用してホルモンうどんを作っていくなど、そういう新しい取り組みも考えていきたいですね。